

令和 4 年度 E B P M の実践における厚生労働省 E B P M 推進チーム事務局コメント様式

部局・課室名	
事業名	

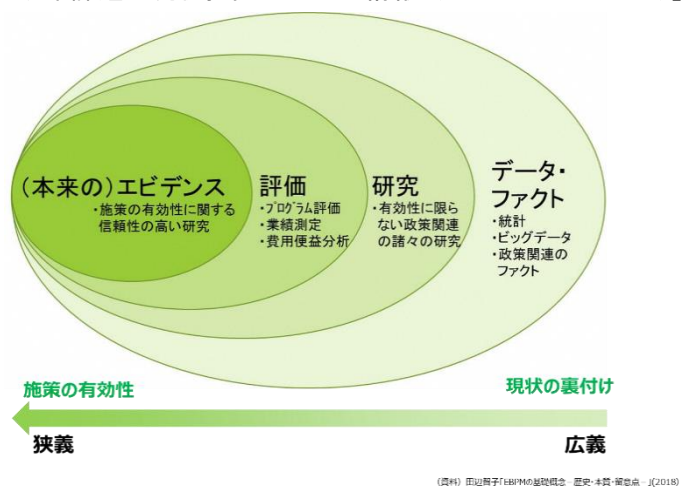
■ 総論	
■ 各論	
1. 現状分析・課題・事業概要の記載 ※ロジックモデル 1 枚目の「現状分析」、「課題」、「事業概要」と対応	ロジックモデルの 1 枚目「現状分析」「課題」「事業概要」欄に、以下の趣旨を踏まえて記載する必要がある。 ◆ロジックモデルの点検上、事務局が点検時に指摘したが未修正である箇所及びヒアリング時の指摘により修正が必要な箇所 ◆ロジックモデルの公開に向けたより良い改善案
2. ロジックモデルの記載 ※ロジックモデル 1 枚目のロジックモデル本体（インプット・アクティビティ・アウトプット・短期アウトカム・長期アウトカム・インパクト）及び 2 枚目のロジックの確認①と対応	ロジックモデルの 1 枚目のロジックモデル本体（インプット・アクティビティ・アウトプット・短期アウトカム・長期アウトカム・インパクト）の各欄に、以下の趣旨を踏まえて記載する必要がある。 ◆ロジックモデルの点検上、事務局が点検時に指摘したが未修正である箇所（論理展開の妥当性の確認を含む。）及びヒアリング時の指摘により修正が必要な箇所 ◆ロジックモデルの公開に向けたより良い改善案
3. アクティビティの妥当性 ※ロジックモデル 2 枚目ロジックの確認②と対応	ロジックモデルの 2 枚目「ロジックの確認②」欄に、以下の趣旨を踏まえて記載する必要がある。 ◆ロジックモデルの点検上、事務局が点検時に指摘したが未修正である箇所及びヒアリング時の指摘により修正が必要な箇所 ◆ロジックモデルの公開に向けたより良い改善案

<p>4. アクティビティ、アウトプット、アウトカムのデータ取得方法</p> <p>※ロジックモデル 3 枚目【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】の「設定した指標を算出する調査名等」と対応</p>	<p>ロジックモデルの3 枚目【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】の「設定した指標を算出する調査名等」欄に、以下の趣旨を踏まえて記載する必要があるほか、事業の詳細を設計するに当たり、効果検証を見据えてデータの取得方法を検討すべきである。</p> <p>◆ロジックモデルの点検上、事務局が点検時に指摘したが未修正である箇所及びヒアリング時の指摘により修正が必要な箇所</p> <p>◆ロジックモデルの公開及び効果検証の実施を見据えたより良い改善案</p>
<p>5. 効果検証方法</p> <p>※ロジックモデル 2 枚目「効果検証方法」と対応</p>	<p>ロジックモデルの2 枚目「効果検証方法」欄に、以下の趣旨を踏まえて記載する必要がある。また、事業の詳細を設計するに当たり、以下に記載の効果検証を実行できる事業設計を検討すべきである。</p> <p>◆ロジックモデルの点検上、事務局が点検時に指摘したが未修正である箇所及びヒアリング時の指摘により修正が必要な箇所</p> <p>◆ロジックモデルの公開及び令和6 年度の効果検証に向けたより良い改善案</p>
<p>■ その他</p>	
<p>効果検証の実施については、事業の目的や優先度、保有データ等の状況も踏まえながら検討する必要があるため、EBPMよろず相談所（内 7572 又は EBPM_jimukyoku@mhlw.local）を活用していただきたい。</p> <p>また、本事業は重点フォローアップ事業であるため、今後も定期的なフォローアップ（年2 回程度）を実施する。</p>	

<参考>

エビデンスとは、「政策の因果効果（＝政策によって生み出された真の効果）を表すもの」。

広義のエビデンスとは、「政策課題の現状把握のための情報（データ・ファクト）」を含むもの。



平成 30 年度 内閣府が示したエビデンスレベルは以下のとおりである。

エビデンスの質のレベルに係る目安	
レベル	分析手法
レベル1	ランダム化比較実験
レベル2a	差の差分析、傾向スコアマッチング、操作変数法等
レベル2b	重回帰分析、コホート分析
レベル3	比較検証、記述的な研究調査
レベル4	専門家等の意見の参照

(資料) 内閣府「平成30年度内閣府本府EBPM取組方針」(2018)